

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	名古屋大学
整理番号	A07
構 想 名	21世紀、Sustainableな世界を構築するアジアのハブ大学

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント) 本構想は、高い競争力を持ち持続可能な世界を築く人材を育成するスーパーグローバル大学としてアジアを牽引するハブ大学となることを目標としている。 具体的な戦略として、(1)世界のトップレベルを目指す先端的研究強化、(2)海外トップ大学とのJoint Degree実施、(3)世界を牽引する人材の育成、(4)アジアにおける拠点展開の四つを掲げ、総長のリーダーシップのもと、全学的規模で研究、教育、ガバナンスに着実に取り組んできた。その取組状況は、総じて、当初計画に記載されていたレベルに既に達しており、取組を継続することにより、所期の目的を上回る成果が見込まれる。 戦略(1)に関しては、ノーベル賞研究を継承し、最先端研究拠点の形成を促進するとともに、次世代の拠点形成のため、若手、女性、外国人研究者への支援を通じた研究力向上に積極的に取り組んでいること、 戦略(2)に関しては、Joint Degreeプログラムの拡大が大学ランキングにおける「国際性」「Reputation」のスコアアップに結実したこと、 戦略(3)に関しては、国際通用性のあるプログラムの展開、優秀な学生の海外派遣の促進に取り組む、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の新たな留学プログラムを構築することにより、教育システムの国際標準化と世界最高水準の教育・研究の展開を推進したこと、 戦略(4)に関しては、アジアのハブ大学を目指し、教育ネットワークの展開および欧米への展開戦略に取り組んでいることが評価できる。 また、事業終了後の自走計画においては、G30教員の定員化によって事業実施の人員を確保する「内製化」とともに、基金、外部資金の獲得により自己収入増加を図るなどの「財源確保」によって、世界最先端研究大学へ発展する見通しが具体化している。 今後は、中間評価調書に課題として記載されている事項、またコロナ禍の影響を受けて一部変更した取り組みなどを中心に、一層充実した事業展開に取り組むことを期待する。	